

文教福祉常任委員会会議記録

日 時 令和2年1月10日(金曜日)

午後 1時30分 開議

場 所 水戸市議会 第3委員会室

午後 1時59分 散会

付託事件

(1) 所管事務調査

1 本日の会議に付した事件

(1) 報告事項

① (仮称)西部いきいき交流センター建設事業について (高齢福祉課)

(2) その他

2 出席委員(6名)

委員長 鈴木宣子君 副委員長 綿引健君

委員 土田記代美君 委員 木本信太郎君

委員 後藤通子君 委員 田口米蔵君

3 欠席委員(1名)

委員 袴塚孝雄君

4 委員外議員出席者(1名)

議長 安藏栄君

5 説明のため出席した者の職、氏名

保健福祉部長
兼福祉事務
所 長 大曾根明子君 保健福祉部
副部長兼
福祉事務
所 長 田中誠一君

保健福祉部
技 監 前田亨君 福祉事務所
参事兼
福祉総務課長 小山忠君

福祉事務所
参事兼
子ども課長 柴崎佳子君 保健福祉部
参事兼
国保年金課長 川津英臣君

生活福祉課長 櫻井学君 障害福祉課長 平澤健一君

高齢福祉課長 野口奈津子君 介護保険課長 荻沼学君

保健センター
所 長 小林かおり君 保健所準備
課 長 小林秀一郎君

消防長 小泉直紀君 消防次長 石川隆君

消防本部参事 鈴木豊君 消防本部参事 小林光宏君

北消防署長	大	内	康	弘	君	南消防署長	勝	村	俊	則	君
消防総務課長	箕	輪	重	美	君	火災予防課長	櫻	井	祐	一	君
消防救助課長	青	木		剛	君	救急課長	石	田	宏	一	君
教育長	志	田	晴	美	君	教育部長	増	子	孝	伸	君
教育委員会 事務局教育部 参事	橋		義	孝	君	教育委員会 事務局教育部 参事兼 教育企画課長	三	宅		修	君
教育委員会 事務局教育部 参事兼 幼児教育課長	鈴	木		功	君	教育委員会 事務局教育部 参事兼放課後 児童課長	菊	池	浩	康	君
総合教育研究 所長	萩	谷	孝	男	君	学校管理課長	鎮	目	英	俊	君
学校保健給食 課長	大	和	敦	子	君	学校施設課長	和	田	英	嗣	君
生涯学習課長	野	澤	昌	永	君	歴史文化財 課長	白	石	嘉	亮	君
中央図書館長	松	本		崇	君	総合教育 研究所副所長	小	川	佐	栄子	君

6 事務局職員出席者

議事課長	永	井	誠	一	君	書記	嘉	成	将	大	君
------	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---

午後 1時30分 開議

○鈴木委員長 皆様，新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

定足数に達しておりますので，ただいまから，文教福祉委員会を開会いたします。

議事に先立ちまして，袴塚委員が所用のため欠席との連絡がありましたので，御報告いたします。

議事に入ります前に，12月27日付で教育長に任命されました志田教育長より，自己紹介をお願いいたします。

志田教育長。

○志田教育長 御紹介をいただきました教育長の志田晴美でございます。本日は，貴重なお時間をいただきまして大変恐縮に存じますが，一言御挨拶を申し上げます。

先月17日，教育長任命の御同意を賜りまして，まことにありがとうございます。4月より中核市になる水戸市の教育長に就任することは大変光栄なことでありますが，それにも増して，責任の重さを現在ひしひしと感じているところでございます。教育を取り巻く環境が絶えず変化する中，水戸市の子どもたちが未来を切り開く力を着実に身につけられるよう，子どもたち一人一人に寄り添い，その成長を支えていきたいと考えております。また，学校教育のみならず，生涯学習や文化の振興など，これまで積み上げられてまいりました水戸市の教育の歴史の文化を引き継ぎ，特色ある教育が展開できますよう微力ながら職務に精励してまいり所存でございます。委員の皆様におかれましては，何とぞ御指導御鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。何とぞよろしくお願ひいたします。（拍手）

○鈴木委員長 それでは，これより議事に入ります。

初めに，報告事項の説明を行います。

（仮称）西部いきいき交流センター建設事業について，執行部から説明願ひます。

野口高齢福祉課長。

○野口高齢福祉課長 それでは，（仮称）西部いきいき交流センター建設事業につきまして，保健福祉部高齢福祉課提出の資料により，御説明させていただきます。

建設に当たりましては，平成31年1月の委員会で御報告させていただきましたとおり，現在設置されている従来の老人福祉センター同様，高齢者の健康づくりや生きがいづくり，社会参加の拠点であることを基本的な機能といたしまして，さらに子育て支援の機能を新たに追加し，子育て中の親子がセンターを日常的に利用することで，高齢者と子どもが触れ合う機会や高齢者が子育てを支援する機会の拡充を図り，さらなる高齢者の生きがいづくりを図れる施設となるよう検討を進めてまいりました。

このたび，（仮称）西部いきいき交流センター建設事業の基本設計がまとまりましたので，御報告いたします。

まず，1の建設地につきましては，2ページの位置図により御確認をお願いいたします。

国道50号線赤塚小南交差点を内原方面に進みまして，市営河和田住宅に隣接する旧河和田保育所跡地，河和田3丁目2274番1，敷地面積は2,858.84平方メートルでございます。

ページを戻していただきまして，2の施設概要につきまして，構造は，鉄筋コンクリート造2階建て，延べ床面積は，約1,450平方メートルでございます。

(3)室名、(4)その他につきましては、ページを返っていただきまして、図面と合わせて御説明させていただきます。2ページをごらんください。

まず、建物の配置といたしまして、南側に隣接いたします市営住宅からの日陰の影響なども考慮いたしまして、敷地の北西側に配置いたしました。駐車台数は50台を確保し、ピロティ付近に車椅子利用者用の駐車場2台分及びベビーカー利用などの子育て利用者へ配慮した、通常の駐車スペースよりも広い駐車場を約8台分設けてございます。

続きまして、3ページの1階平面図をごらんください。

中央付近の白抜きの三角のマーク、こちらが玄関でございます。多世代交流スペースは、玄関ホール付近に設け、高齢者、子ども世代のどちらの利用者も利用しやすいようにしてございます。そのほか、1階部分には、多目的ルーム、プレイルーム、授乳室、調理室が設置されており、いずれも既存の老人福祉センターにはなかった機能でございます。多目的ルームには可動間仕切りが設けられ、一体利用、分割利用ができるようになっており、例えば高齢者の皆様の講座や子育て中の親世代のサークル活動などに利用していただくと考えております。プレイルームは、お子様が日常的に遊べる場として、調理室については、介護予防の栄養教室や離乳食講座、多世代での料理教室などの活用を想定しております。また、2階への階段はバリアフリー仕様で、段差が16センチ以下のなだらかなものとなっており、エレベーターは、車椅子やストレッチャーにも対応できる仕様となっております。

ページを返していただきまして、4ページ、2階平面図をごらんください。

2階部分は、既存の老人福祉センターの機能をワンフロアに集約させた形となっております。集約することにより、1階と2階を行き来するという負担が少なく活動していただくと考えております。多目的ホールは、軽運動に対応した空間、陶芸用の焼窯室、作業室などは陶芸作業や工作作業用として、研修室、会議室は可動間仕切りが設けられ、一体利用、分割利用ができる部屋となっております。また、浴室、脱衣室、湯上り休憩スペース、和室を一角にまとめることで、気軽にくつろげ、交流の場となる空間としてございます。非常時における避難の対応といたしましては、建物内部の階段をどの場所からも避難がしやすい建物の中心に位置し、外部の非常階段を北側と西側の2カ所に設置するなど、避難経路を確保しているところでございます。

ページを1ページに戻していただきまして、3の整備スケジュールにつきましては、今年度中に地質調査に入り、令和2年度に実施設計、令和3年度から4年度にかけて、本体工事及び外構工事の実施、令和5年度の供用開始を予定してございます。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○鈴木委員長 それでは、委員より御質問等がございましたら発言を願います。

田口委員。

○田口委員 いきいき交流センターということで、これ、新しく名称を変えたんですね。老人福祉センターでしたっけ。それで、今西部、東部、あと南部でしたっけ、幾つでしたっけ、いきいき交流センターに変わった場所というのは。場所というか箇所。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 現在既存の老人福祉センターは7カ所ございますので、7カ所全てが、4月からいきいき交流センターになります。

○鈴木委員長 田口委員。

○田口委員 西部のほうにはなかったということで、開設されるわけですよね、要望を踏まえて。これまでの7つある交流センターにはいろんな部屋があるけれども、利用状況というのは、有効に使われているのかということをお聞きしたい。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 現在は老人福祉センターでございますが、7カ所合わせて昨年度は年間延べ18万人の利用がございました。また、入浴につきましても、約4割の方が入浴施設を利用してございます。教室、クラブ活動で、地域の皆様に利用していただいております。

○鈴木委員長 田口委員。

○田口委員 非常に大切な施設だなということであることから、いち早く完成させていただきたいという気はするんですけども、範囲というのは、7カ所あるという中で、ここを利用する方の制限は別になくて、ただ、位置が西部にあるという考え方ですか。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 交流センターにつきましては、市民センターと違いまして、地区の拠点という考え方ではございませんので、市内どちらの方でもお使いいただけたらと考えております。

○鈴木委員長 田口委員。

○田口委員 この中でも、焼窯室というような説明がございましたけれども、これはどの施設にもあるというわけではないですよね。南部でしたか、全部の施設にありますか、この焼窯室というのは。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 陶芸用の焼窯室でございますけれども、既存の老人福祉センターの中では、葉山荘、長者山荘、常澄老人福祉センター、南部老人福祉センターに設置してございます。

○鈴木委員長 田口委員。

○田口委員 その焼き物をやるというのは、何々教室という形で特別予約もしないで、その焼く教室があるときに参加できるというような感じなんですか。その利用というのは、何人が使っていらっしゃるのかな。設置されている施設においては、よく使われているのか。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 現在の使用の仕方としましては、各老人福祉センターの教室あるいはサークル活動の団体が計画的に使っているような状況になってございます。あと、現在設置されていないあかね荘とか焼窯室のない施設の方も、例えば常澄老人福祉センターの焼窯室を借りたいとか、そういう形で今使っているような状況になっております。

○鈴木委員長 よろしいですか。

ほかに、ございませんか。

木本委員。

○木本委員 ちょっとそもそも論で聞きたいんですけども、今はどこにあるんでしたっけ、今はないんでしたか、西部のセンターは。新しくここにつくるということですよ。ぜひ地域のそういった方々の交流の拠点になればいいと思うんですけども、やはりこの御時世ですので、気になるのは、緊急時とか災害時にどういうふうに対応するかということで、この地域ですと、桜川市民センターとか赤塚市民センターはバイパスの向こう側なんですよ、あるのはね。こちらが多分ないと思うんですけども、ただ、目の前には大変大きな河和田住宅を抱えているということで、そこら辺の、新しい設備ということで、何かそういった震災対応というか地域の避難所として生かせる機能はあるんですか。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 完全な避難所という想定ではないんですけども、例えば施設、建物内の倉庫には備蓄をさせていただく。あるいは今回台風のときに、長者山荘のお風呂などを開放もいたしましたので、もしそういうことがあったときには、老人福祉センターの入浴施設なども使っていただけるように、建物のほうも、揺れとか、あと台風の被害にも遭いにくいような構造を考えてございます。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 備蓄倉庫自体はあるんですか、ここには。いわゆる市民センターにあるような、ああいうスペースのものが各いきいき交流センターにも設置されるというふうに受けとめていいんですか。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 具体的に備蓄のための倉庫を別につくるということは今は考えておりませんが、建物内の倉庫等に備蓄品をできるだけ配備できるように今後担当課と考えていきたいと思っています。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 ぜひそこは御検討いただきたいと思います。先ほど言ったように、目の前に大きな団地を抱えていて、わざわざ皆さんバイパスを渡って向こうに行くとはちょっと考えにくいですよ。恐らくここにいろんな方が来るんじゃないかと想定されますので、しっかりと御検討いただいて対応をお願いいたします。

以上です。

○鈴木委員長 ほかに。

土田委員。

○土田委員 予算的には、どのぐらいの計画なのかというところをお願いします。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 3か年実施計画においては、直接建設、外構工事も含めまして、6億1,000万円の予算がついております。

○鈴木委員長 よろしいですか。

ほかにございますか。

綿引副委員長。

○綿引副委員長 すみません、1点だけお伺いします。障害者用の駐車場、これ、ピロティ部分に2台配置をされているんですが、この図面を見ると、ちょっと柱がかかるような状況で、多分高齢者の方が多く利用されると思いますし、運転にふなれなお母さん世代の方も多分使われるようになると思うので、駐車場の幅

というのは、全体的に広くしていただきたいとお願いをしたいのと、あえてピロティ部分に入れないで、入り口前のところに障害者スペースを構えたほうが利用しやすいんじゃないかなと思うんですが、その辺はどういう状況ですか。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 ピロティ部分に設置いたしましたのは、上に屋根があるということで、ぬれずに建物に入っただけということ想定して、こちらになってございます。柱の部分につきましては、設計業者ともこれから協議してまいりたいと思っております。

○鈴木委員長 綿引副委員長。

○綿引副委員長 あくまで基本設計だと思いますので、実施設計の段階で、そういったものも検討していただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○鈴木委員長 ほかにございませんか。

土田委員。

○土田委員 すみません、今あるあかね荘の場合は、駐車場は何台ぐらいあるんですか。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 あかね荘は身障者用の駐車場も含めて23台ございます。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 ありがとうございます。あかね荘だと、駐車場が足りないという話を聞いているので、50台分あるということは、ちょうどいい感じになるんでしょうかね。

○鈴木委員長 よろしいですか。

ほかにございますか。

後藤委員。

○後藤委員 健康・育児相談室というのがあるんですけども、ほかのいきいき交流センターにもあるのかということと、ここには常時相談員がいるのかということについて、お伺いいたします。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 既存の老人福祉センターにつきましては、高齢者だけが使う設定になっておりますので、健康相談ということで、看護師が日中常駐しているというような形になっております。

○鈴木委員長 育児相談室についてもお願いいたします。

○野口高齢福祉課長 こちらの健康・育児相談室につきましても、同じような形、あるいは看護師及び今後の運営の関係もあるんですけども、できれば保育士も考えていきたいと考えております。

○鈴木委員長 ほかにございますか。

田口委員。

○田口委員 今後藤委員のほうからあった質問の中に、この施設は、ほかと違う子育てという部分が新しく入るということですね。そうすると、このいきいき交流センターという名称が、全てどこの施設も変わったということで、ほかの施設もこれから順次そういう子育ても対応することを検討しているということではないのか、あるのか。

○鈴木委員長 野口課長。

○野口高齢福祉課長 既存の老人福祉センターにつきましても、各センターで、それぞれ多世代交流事業というのを行ってございます。今回つくります西部いきいき交流センターにつきましても、多世代交流という部分をさらに特化させて、子育て部門をきちんと入れるというシチュエーションになってございます。

○鈴木委員長 よろしいですか。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○鈴木委員長 ないようですので、この件について、終わります。

次に、その他に入ります。

委員より何かございましたら発言願います。

木本委員。

○木本委員 すみません、今日は袴塚委員がお休みですので、かわりに発言したいと思います。

まずもって、志田教育長、御就任おめでとうございます。心から歓迎を申し上げたいと思います。先ほど冒頭も御挨拶ありましたとおり、ぜひ時代をたくましく生きる子どもたちを育てる教育をしていただきたいと思ひますし、水戸は、歴史的にも文教都市として、いろんな歴史、伝統文化がある水戸というものもあるんですけれども、そういった歴史にあぐらをかくことなく、いかにやるかということが大変重要だと思ひますので、ぜひ力を発揮していただければと思ひます。

その教育行政なんですけれども、いよいよ子どもが90万人を割ったということで、新聞でも報道されておりました、水戸市でも、子どもたちが少ない学校は小規模特認校ということで行っているんですが、一方で、今学校の長寿命化で大規模改修と、あとトイレの洋式化を行っていると思うんです。カテゴリー的には、小規模特認校だとか義務教育学校だとか、あと普通の学校もあると思うんですけれども、恐らく大規模改修をやっていくと、ずっと年次計画でやっているから、かなりの年月がかかりますよね。そうすると、恐らくこれから笠原小学校のように子どもがふえるところもあれば、いわゆる郊外の学校で、もう一歩やっぱり学校をどうしようかと考えていかなくちやいけない地域が出てくると思ひます。何が言いたいかといいますと、大規模改修とかトイレの洋式化は行っていったきたいんですけれども、せっかくやったのに、すぐ廃校ないし合併ないし何かしら今後考えなくちやいけないとなってしまうと、大変税金が無駄になってしまいますので、そこら辺について、例えば今の現状で、恐らく常々は小規模特認校でやっていくと思うんですけれども、ほかに小規模特認校を検証、検討するような学校、もしくはもうそうではなくて、ほかの学校との統合を考え、検証せざるを得ないような学校というのはあるんですか。例えば大変恐縮ですけども、上大野小学校もかなり子どもが少ない地域になっていたと思うので、そこら辺の整合性について、どういうふうにお考えなのかというのをちょっと、教育長はまだ来たばかりなんであれでしょうけれども、担当課でもしわかれば、教えていただければと思ひます。

○鈴木委員長 鎮目学校管理課長。

○鎮目学校管理課長 ただいまの質問にお答えさせていただきます。

委員からもありましたように、小規模特認校ということで、国田義務教育学校に加えまして、大場小学校、

下大野小学校、そして上大野小学校と、現在2年目を迎えて、生徒の特性を生かして、学区外からも通学する子も含めて、円滑な学校教育が行われているところでございます。その他、今現在につきましては、新たに小規模特認校をという話はうかがっておりませんが、先ほど委員からも御指摘がありましたように、小規模特認校というのは、学校の特色を生かした学校ということで、上大野小であれば、理科教育とか体験学習とかそういうものが充実している学校でございます。その特色ある学校づくりという視点におきましては、これからも市内のどの学校でも進めていくべき課題だと思っております。その上で、今後の人口推移を踏まえながら、新たに小規模特認校ということも検討するときが来れば、それはまた新たに考えていきたいと思っておりますが、常に特色ある学校づくりを進めていくという視点におきましては、毎年の課題を持って今後も進めていきたいと考えております。

以上です。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 ぜひ私もそれに賛同するんですけども、私が聞いたかったのは、文科省で、複式学級になると一応検討してくださいとなるじゃないですか。そういうふうな、いわゆる黄色信号がとれる、今の小規模特認校を除いて、そういった黄色信号になっている学校というのが、水戸市内にあるのかどうかということを確認したかったんです。

○鈴木委員長 鎮目課長。

○鎮目学校管理課長 委員から御指摘がありましたように、複式学級が継続している場合は対象校となるということがございますが、現在は上大野小学校に複式学級がございますが、その他の学校で複式学級というものは現在は発生しておりません。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 わかりました。ないに越したことはないのですが、ぜひこれから水戸市もできれば人口がふえてもらって、なぜこの質問をするかということ、いよいよ去年からですよ、水戸市も人口減少が始まりましたので、恐らく遅かれ早かれ、また出てくる話なのかなと。もちろんこれから水戸市の政策が大変すばらしく、ここからV字回復してもらいたいというのが一番なんですけれども、やはりそうじゃないときも踏まえて、不測の事態に備えて、そういったところも考えていかなくちゃいけないですし、何よりも大規模改修には時間もかかるしお金もかかるので、うちの学校はいつやるのかなと待っている間に、そもそもうちの学校は存続するのかなという話になるんじゃないかというのが一番気になったもので、ぜひ大規模改修も予算の都合があるので仕方がないんですけども、1校でも早くやってもらいたいですし、それぞれの学校が一日も長く単体で存続できるように、ぜひ政策を行っていただければと思いますので、私からは以上です。

○鈴木委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○鈴木委員長 ないようですので、この件について、終わります。

それでは、以上をもちまして本日の文教福祉委員会を散会いたします。

御苦労さまでございました。

午後 1時59分 散会